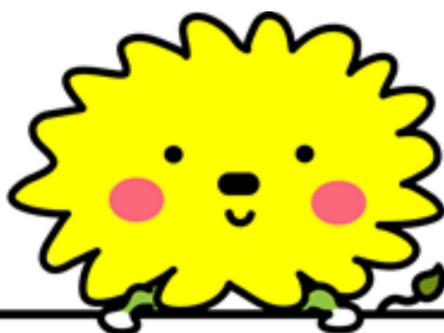


# 阿南市子どもの読書活動推進計画 (第二次推進計画)



平成28年3月

阿 南 市

## はじめに

子どもにとって本に親しみ、読書することは、言葉をはじめとした様々な知識や知恵を学び、感性や情緒、さらに想像力、表現力、思考力、創造力などを養い、命の大切さや人を大切にするなど、より豊かな人間性を育み人生をより味わい深い豊かなものとしていくために欠くことができないものです。

このため、本市では、平成20年12月に、「阿南市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもたちの読書環境の整備を重点的に行い、読書活動を推進することに努めてきました。

近年、インターネット、携帯電話等から情報が簡単・瞬時に入手でき利便性が向上した反面、情報が氾濫する中、正しい判断力をもって情報を選択できる力が必要となってきています。

情報化社会の中で生まれ育っている子どもについては、読書を通じて読解力や想像力、思考力、表現力等の生きる基礎力を養うとともに、書籍や新聞、図鑑などの資料を読み深めることで、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる知的探求心や真理を求める態度を培うことが必要です。また、インターネットサイトの見過ぎ等に伴う読書離れ等が懸念される中、これまで以上に一人一人が読書を通じて自主的に学ぼうとする習慣を身に付けていくことも大切です。

こうしたことから、子どもが本と出合い、読書の楽しさにふれながら、言葉の力や「教養・価値観・感性」等を身に付け、自ら考え、判断し、豊かに生きていくために、あらゆる機会とあらゆる場所において、子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境の整備を推進することを目的として、「阿南市子どもの読書活動推進計画（第二次推進計画）」を策定しました。

この計画に沿い、今後も、ボランティア団体をはじめとする関係団体の皆様の協力を得ながら、子どもの読書活動の推進及び学校図書館の活性化に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本計画に当たりご協力をいただきました皆さま方に心より感謝申し上げますとともに、今度とも子どもの読書活動推進のため、格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月

阿南市教育委員会 教育長 新居 正秀

## 《 目 次 》

### 第1章 第一次推進計画の成果と課題

- 1 第一次推進計画策定後の情勢変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 第一次推進計画の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 第一次推進計画の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

### 第2章 基本的な考え方

- 1 阿南市子どもの読書活動推進計画（第二次推進計画）策定の趣旨・・・・・・・・ 5
- 2 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 推進計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

### 第3章 子どもの読書活動推進のための方策

- 1 家庭における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
  
- 2 地域における子どもの読書活動の推進

  - (1) 市立図書館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - (2) ボランティア団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
  - (3) 児童クラブ・児童館・公民館・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

  
- 3 学校等における子どもの読書活動の推進

  - (1) 保育所（園）・幼稚園・認定こども園・・・・・・・・・・・・ 14
  - (2) 小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
  - (3) 中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

### 第4章 子どもの読書活動推進のための社会的気運の醸成

- 1 子どもの読書活動推進のための情報収集と提供・・・・・・・・・・・・ 20
- 2 「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」等への取組・・・・・・・・ 20

- 巻末資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

## 第1章 第一次推進計画の成果と課題

### 1 第一次推進計画策定後の情勢変化

阿南市では、平成20年12月に「阿南市子どもの読書活動推進計画」（以下「第一次計画」という。）を策定し、様々な施策に取り組んできました。

#### 【社会的背景】

テレビ、ビデオ・DVD、パソコン、スマートフォン（携帯電話）などの様々な情報メディア・情報媒体の発達・普及によって、利便性が向上した反面、子どもたちが映像に過度に依存し過ぎることに伴い、文字・活字離れが懸念されています。

#### 【国】

##### （1）「子どもの読書活動」に関連する法制上の整備

- ・平成24年12月：「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年文部科学省告示第172号）が改正されました。
- ・平成27年4月：「学校図書館法」（昭和28年法律第185号）が改正・施行され、学校司書の配置が努力義務となりました。

##### （2）「国民読書年」の制定（平成22年）

- ・平成20年6月：国会決議により平成22年を「国民読書年」とすることが定められ、読書推進の機運を高めるため、「政官民が協力のもと、国を挙げてあらゆる努力を重ねること」が宣言されました。
- ・図書館をはじめ、様々な場所で国民読書年にちなんだ行事や取組が推進されました。

##### （3）新学習指導要領の全面実施（小・中・高）

- ・小学校は平成23年度から、中学校は平成24年度から全面実施、高等学校は平成25年度入学生から年次実施されています。
- ・言語の力を育成することが改善ポイントの一つであり、各教科等において言語活動の充実を図る中で、発達段階に応じた体系的な読書活動を行うことが求められています。

##### （4）新しい情報通信技術を活用した読書環境の拡大

- ・平成22年：「電子書籍元年」と呼ばれ、電子書籍の出版等が相次ぎました。
- ・平成24年：「著作権法」が改正されました。
- ・平成26年：国立国会図書館の電子化資料のうち、絶版等資料については、図書館等にインターネット送信を行うことができるようになりました。

## 【県】

### (1) 文部科学省委託事業等の実施

- ・平成21年度：「子ども読書応援プロジェクト」実施
  - ①「子ども読書地域ボランティアリーダーの育成事業」  
読み聞かせ等の技術と読書活動への意欲の向上が見られました。
  - ②「子ども読書地域スクラム事業」  
「とくしまの子どものためのブックリスト100プラス！」を作成しました。
- ・平成22年度：「地域子育て創生事業ブックスタート・サポート事業」実施  
「徳島県安心こども基金事業」として、「とくしまの赤ちゃんのためのブックリスト100 ジャスト！」が作成され、家庭での親子読書の習慣化が図られました。

### (2) 読書の生活化プロジェクトⅡ・Ⅲ・Ⅳの推進

- Ⅱ：平成21～23年度「学校による『家でも本読む習慣づくり』」
- Ⅲ：平成24～26年度「毎日10分以上、家で読書をしよう！」
- Ⅳ：平成27～29年度「友達や家族に『おすすめ本』を紹介しよう！」

### (3) 「徳島県子どもの読書活動推進協議会」（平成16年度設置）の活動

- ・平成21～23年度：「みんなで応援する子どもの読書推進事業」
- ・平成24～25年度：「とくしま子ども読書推進アクション」

### (4) 徳島県教育振興計画

- ・第1期（平成20～24年度）では、読書活動イベント参加者を4,000人以上とするとともに、家や図書館で1日10分以上本を読む児童生徒の割合を小学5年生、中学2年生ともに5ポイントの増加を目指すとする数値目標を設定しました。
- ・第2期（平成25～29年度）では、読書活動イベント参加者数の増大と「ふだん1日10分以上」読書をする児童生徒の割合の増加を数値目標として設定しました。

### (5) 平成26年10月「徳島県子どもの読書活動推進計画」（第三次推進計画）が策定されました。

## 【市】

阿南市では、本市の教育理念である「共に生き、豊かな心で個性輝く人づくり」の実現を図るために「阿南市教育振興計画」（平成22年3月策定）に引き続き、平成27年3月に、「阿南市教育振興計画-後期基本計画-」が策定されました。

その中で、図書館活動及び読書普及の推進を教育施策の一つとして取り上げ、すべての市民の人生を豊かにする読書の習慣化と生涯学習活動の活性化をめざして、読書グループを中心とした読書活動の普及や、生涯学習の中核施設としての図書館の機能向上に取り組んでいます。

## 2 第一次推進計画の成果

第一次推進計画策定以降の取組の成果として、次のようなものが挙げられます。

- (1) 平成16年度より「ブックスタート」事業を始めています。保健センター・市立図書館・地域のボランティアが連携・協力して、乳児の4か月健診の機会に、赤ちゃんと保護者とと一緒に絵本を楽しむことの大切さを伝えながら絵本が手渡されています。その結果、乳幼児期から読書に親しむことの重要性を発信し、保護者や家庭に少しずつ子どもの読書活動に対する関心と理解が広がっています。
- (2) 市内全小・中学校において全校一斉の「早朝読書」等に取り組み、読書習慣や自ら学ぶ姿勢を身につけるとともに、すべての子どもに読書に親しむ機会や時間が確保されています。
- (3) 市立図書館においては、児童書の充実が図られ、特別展示やブックリストを工夫することで、子どもが本を手に取りやすい環境を作り出しています。  
学校との連携・協力が進み、移動図書館による団体貸出や配本等を利用することで、学校図書館や学級文庫の図書も充実してきました。  
読書週間行事「図書館まつり」は、平成22年度から継続して開催し、広く市民に図書館への理解、関心を深め、子どもの読書活動につながっています。
- (4) 各幼稚園・小学校をはじめ、児童クラブ、保育所（園）において、ボランティアとの連携・協力が進み、読み聞かせやブックトーク等の多様な読書活動が子どもたちに提供されています。
- (5) 子どもの読書活動の実践について、市内のボランティア団体が文部科学大臣表彰を受賞されました。  
平成23年度子どもの読書活動優秀実践団体「おはなしのポケット」

## 3 第一次推進計画の課題

第一次推進計画期間後の課題として、次のようなものが挙げられます。

- (1) 児童生徒の実態から  
読書への興味・関心には個人差があり、年齢が進むにつれて、読書量や読書時間の減少が見られます。読書へ興味・関心の低い子どもたちに対して、本を読む喜びや楽しさを伝え読書意欲の向上につながるように、家庭・学校・地域等がそれぞれの立場から読書活動の魅力、素晴らしさをこれまで以上に伝えることが望まれます。

各学校において学年が進むにつれ、調べ学習等においてインターネット検索が主流となってきており、学校図書館の利用も固定化する傾向が見られ、限られた子どもたちの利用となっています。すべての子どもたちが、自主的に学校図書館を活用できるように、学校と学校司書・ボランティア団体が連携し、新たな視点や工夫を凝らしながら、学校図書館の活性化を図ることが望まれます。

## (2) 家庭・保護者への働きかけ

家庭における読み聞かせや子どもの読書習慣の大切さへの理解を図り、家族全体で読書に取り組むことができるように、保護者に対して、読書活動の意義や重要性について、より一層啓発に努めることが望まれます。

子どもの読書活動推進を社会全体の課題としてとらえ、推進していくためには、家庭・地域・学校等がそれぞれの役割を果たし連携することが重要です。そこで、子どもや子どもを取り巻く読書環境の整備を行うために、各学校等・市立図書館・ボランティア団体との情報連携・情報発信・情報の共有化が課題となっています。

## (3) 学校図書館の充実について

「学校図書館図書標準」の基準に満たない学校が半数以上あるため、図書資料収集時における市立図書館との情報連携を推進し、学校団体貸出等を有効活用しながら、長期展望に立った図書購入など、蔵書の充実を図ります。(巻末資料参照)

また、学校図書館の利用の一層の促進を図るため、学校司書を置くよう努め、学校図書館を活用した授業や取組を促進します。



「ブックスタート」事業

## 第2章 基本的な考え方

### 1 阿南市子どもの読書活動推進計画（第二次推進計画）策定の趣旨

今日の情報メディアの急速な発達・普及による情報源の多様化や、子どもの生活環境の変化などによって、「子どもの読書離れ」が指摘されています。

このような状況を踏まえて、国は子どもの読書活動推進のための取組を進めるため、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、この法律に基づき、平成14年8月には、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次基本計画）が定められました。

そして、平成20年3月には第二次基本計画が、平成25年5月には第三次基本計画が、それぞれの前計画の成果と課題を検証した上で今後の施策の基本的方針と具体的な方策を明らかにするものとして策定されています。

本市では、法律や国・県の計画の趣旨を踏まえて、平成20年12月に「阿南市子どもの読書活動推進計画」（第一次推進計画）を策定し、子どもが自主的に読書活動に取り組むことのできる環境の整備・社会的気運の醸成に努めてきました。

この期間中、学校における読書活動の推進や、ボランティア団体の活動が活発化してきましたが、学校・市立図書館・ボランティア団体のより一層の連携の必要性や、学校図書館の活性化などに課題もあります。このため、国・県の計画の趣旨を踏まえ、第一次推進計画期間中の成果と課題を明らかにし、今後の施策の方向性と具体的な取組を示すものとして「阿南市子どもの読書活動推進計画」（第二次推進計画）を策定します。

### 2 基本方針

読書には、考える力を伸ばし、自分自身の内面的成長を促すという特性があります。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条にも「読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないもの」とうたわれています。

「読む力」は最も基本的な学力のひとつであり、読書活動は、論理的な思考力や豊かな感性を養うとともに、主体的に学ぶ力の基礎、さらには知的活動の基礎をはぐくみます。学ぶ力の基礎、知的活動の基礎となる自主的な読書活動は、「文字・活字文化振興法」第1条が規定するように、人格の完成と個人の能力の伸長、主体的な社会参画を促すものとして、民主的で文化的な社会の発展に不可欠なものです。

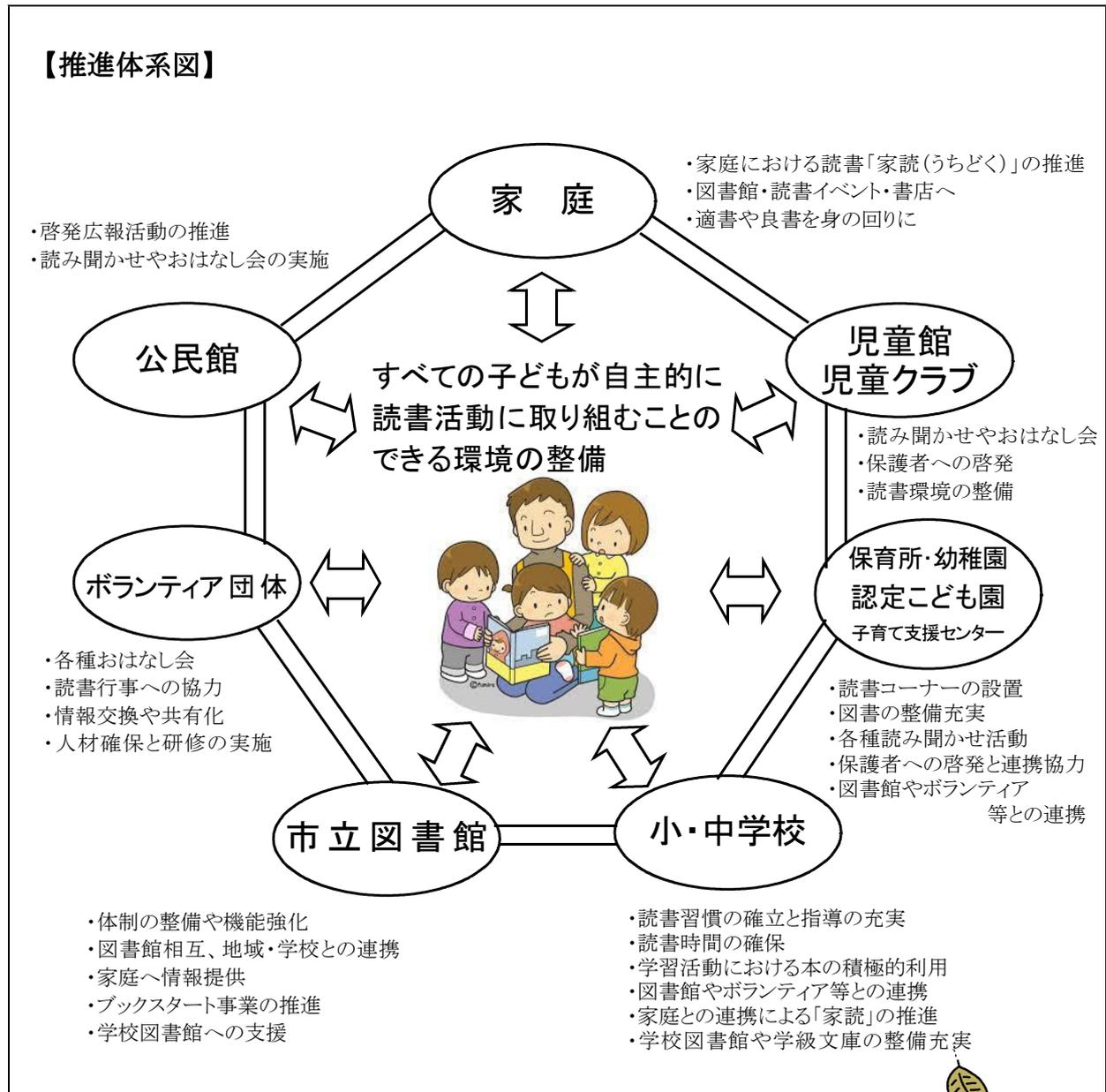
今、私たちの社会は高度情報化、国際化等が急激なスピードで進行し、大きな変革期を迎えていると言えます。新しい時代を担う子どもが、読書活動に取り組むことで自らの心を育て、社会に目を開き、未知なる世界への関心を高め、生涯にわたって主体的に生きる力をはぐくむことは計り知れない価値を持つものです。

このような子どもの自主的な読書活動を推進するために、「阿南市子どもの読書活動推進計画」（二次推進計画）においては、すべての子どもが豊かな心をはぐくみ、生涯にわたり自ら学ぶことのできる力を養うため、子どもの読書活動の意義や重要性について市民の理解・関心を高め、家庭、地域、学校の連携のもと市民総ぐるみで、子どもが自主的に読書活動に取り組むことのできる環境を整備することを目指します。

### 3 推進計画の体系

本市においては、この「第二次推進計画」に基づき、家庭、地域、学校、図書館などの社会教育施設、ボランティア団体等が相互に連携協力し、子どもの自主的な読書活動を市民総ぐるみで推進するための社会的機運の醸成を図ります。

また、子どもが読書に親しむための機会と施設・設備・図書資料等の整備・充実に努め、すべての子どもが自主的に読書活動に取り組むことのできる環境の整備を進めます。



### 4 計画の期間

計画の期間は、平成28年度からおおむね5年間とします。



### 第3章 子どもの読書活動推進のための方策

#### 1 家庭における子どもの読書活動の推進

##### 【成果と課題】

家庭における子どもの読書活動は、将来の読書活動を決定づける重要な要素となります。つまり、幼少期の読書環境や体験が基盤となり、その後の読書活動に大きく影響を与えると考えられます。

第一次推進計画では、家庭において家族で読書の習慣を共有し、読書を通して家族がコミュニケーションを図ろうとする試み（いわゆる「家読（うちどく）」）を重ねていくことを重要課題として取り組んできました。しかし、十分浸透したとは言えず、その普及には今後も引き続き取り組んでいく必要があります。

本市では、乳幼児期から家庭における読み聞かせや読書習慣の重要性を伝えるため、平成16年度から「ブックスタート」事業として、乳児の4か月健診時に絵本の紹介や読み聞かせをしながら絵本を手渡し、早い時期に本とふれあうきっかけをつくる大切さを説明しています。参加した保護者のアンケートには、「家庭でも読み聞かせをしたい。」「図書館を利用して本を読む環境をつくってあげたい。」「おはなし会に参加したい。」という感想が多く寄せられています。

また、平成20年度から「びよちゃんくらぶ」という赤ちゃんのためのおはなし会も月2回、阿南図書館で実施しています。それを機に、「赤ちゃん絵本コーナー」を市内図書館3館に設置して、赤ちゃん絵本の充実に努めています。

保育所（園）・幼稚園・認定こども園では、絵本の紹介や貸し出しを行ったり、小・中学校では、家庭読書の日を推奨したりして、家庭読書を習慣づける工夫をしていますが、学年や学校段階が上がるにつれ、読書離れが進む傾向が見られます。

今後は、子どもの読書活動に興味・関心の低い家庭にも、読書習慣の重要性を周知していくため、あらゆる機会を通して家庭読書に関わる情報を発信し、情報が共有化されるように取り組む必要があります。

##### 【方策】

- 「ブックスタート」事業では、保健センター、ボランティア団体、市立図書館が、連携・協力してそれぞれの立場から絵本との出会いの場を提供し、乳幼児期からの読み聞かせ等の重要性の啓発に努めます。また、図書館では赤ちゃん絵本の充実と、絵本のリストを作成・配布して年齢に応じた読書活動の啓発を継続していきます。
- 推薦図書の紹介や、園便りや講演会等で読み聞かせをすることの大切さを伝えて、保護者への啓発につなげていきます。また、家庭読書を推進し、子どもの読書習慣の定着を図ります。
- 学校等を通じて、「家読（うちどく）」を奨励し、「家庭の10分間読書」推進に努めます。

## 2 地域における子どもの読書活動の推進

### (1) 市立図書館

#### 【成果と課題】

図書館は、子どもが様々な本を自由に手に取り、自ら選び、借りることにより、本を身近に感じ、読書の楽しみを知ることができる施設です。

阿南市立図書館は、阿南図書館・那賀川図書館・羽ノ浦図書館と、平成25年度から新しくなった移動図書館ひまわり号により、市内全域に図書館サービスを展開しています。

各図書館では、長く読み継がれてきた本を中心に、現在の子どもによく読まれる本を幅広く収集しています。児童書は、平成20年度の93,980冊から年々増加し、平成26年度は、112,800冊になっています。それに伴い図書館の全蔵書における児童書の割合も増加し、平成26年度は30.7%になりました。また蔵書が有効に活用されるよう、各図書館で工夫を凝らした児童特集本の展示、ブックリストの作成などの取組を続けた結果、児童書の貸出冊数は微増ながら、図書館の全貸出冊数における割合は、平成20年度の35.2%から平成26年度は38.7%と増加しています。



児童特集本の展示



赤ちゃん絵本コーナー

図書館では、乳幼児期から親子で読書に親しむ環境が必要と考え、保健センター・ボランティア団体と連携した4か月健診時の「ブックスタート」事業や、ボランティア団体の協力による定期的な「おはなし会」を継続して行っています。また各図書館に設置されている0～3歳児向けの「赤ちゃん絵本コーナー」には、平成27年11月現在1,827冊の本を揃えています。さらに、平成22年度からは、読書週間行事の「図書館まつり」で、親子で楽しめる絵本コンサートなどの子ども向け行事を開催し、子どもの読書への関心を高めています。平成27年度の「図書館まつり」は、コスモホールで開催された「長靴をはいたねこ」の影絵劇をメインに、各図書館では、ボランティア団体による「スペシャルおは

なし会」を行い、「図書館まつり」の催し全体で、約700人の参加がありました。

小・中学校などの教育機関に対しては、来館・配本・移動図書館ひまわり号による団体貸出、総合学習や調べ学習などの支援を継続して行っています。来館の団体貸出のメリットは、先生や子どもが直接図書館の棚を見て必要な本を選び、長期間借りることができる点です。配本は、子どもの年齢や学習状況に合わせた児童書を図書館職員が選び、定期的に団体貸出することにより、学級文庫などに活用され、子どものすぐ手に取れる身近な場所に本が常にある状況を生み出しています。平成26年度は、23団体（保育所5か所・認定こども園1園、児童クラブ7か所、小学校7校、中学校2校、児童養護施設1か所）に14,970冊の本を貸し出しました。移動図書館ひまわり号は、図書館から遠い地域の小中学校（小学校9校・中学校3校）を1か月毎に巡回し、学級単位の団体貸出を行っています。平成26年度は、12,840冊の本を貸し出しました。また、小・中学校以外の巡回場所でも個人貸出を行っています。そこでは、子ども連れや子どものために児童書を借りる利用者の姿が見られ、図書館から離れた地域の子どもの読書推進に役立っています。

図書館では、子どもに図書館を身近に感じて、気軽に来てもらえるよう小学校の「図書館見学」・中学校の「職場体験」などの積極的な受け入れや、小学生対象の「一日司書」「読書感想文の書き方教室」中学生対象の「ピアノボランティア」などの行事を継続的に行っています。



図書館まつり（絵本コンサート）



ひまわり号団体貸出

乳幼児、小・中学生に対する図書館の取組は一定の成果をあげています。今後さらに子どもの読書活動を推進するにあたり、本に親しんだ子どもが年齢を重ねても読書を楽しみ、継続して図書館を利用してもらえる環境づくりが必要であると考えています。特別な支援を必要とする子どもも含め、子どもはひとりで図書館を訪れることが難しく、保護者の読書活動への理解と手助けが必要です。

そこで、図書館では学校など教育機関、ボランティア団体、保健センターなど阿南市の機関、県立図書館をはじめとする公共図書館と連携をさらに深め、子どもの読書支援と図書館活用の利便性を高めるとともに、子ども・保護者に

対して、児童書および図書館の情報を積極的に発信し、図書館と子どもの読書活動への理解を深めたいと考えています。

### 【方策】

- 児童書の情報収集に努め、絵本・児童小説・調べ学習資料など児童書の充実を図ります。
- 季節などに合わせた児童特集本の展示、ブックリストの作成により一層力を注ぎます。
- 特別な支援を必要とする子どもに向けて、学校など教育機関と連携し、デージー図書の紹介などの支援を行います。
- 子どもの読書活動に係るボランティア団体の支援を継続し、協働して「おはなし会」や「読書週間」行事などを開催し、子どもの読書の啓発活動に取り組みます。
- 保健センター、ボランティア団体と連携した4か月健診時の「ブックスタート」事業の継続と、子どもの年齢に応じた読書活動の啓発に努めます。また、「ブックスタート」事業に携わるスタッフの技術向上と安定した人材確保を図ります。
- 保育所(園)、幼稚園、認定こども園、児童クラブ、小・中学校に対しては、来館・配本・移動図書館ひまわり号による定期的な団体貸出、総合学習、調べ学習などの支援を継続して行います。
- 子どもの読書活動の啓発と継続的な図書館利用の促進を図るため、行事案内をはじめとする印刷物（「こどもしつだより」等）の配布やポスター掲示・子どもの作品展示などを通して、学校などの教育機関や保護者に積極的に働きかけます。
- インターネットを活用した情報発信として、子どもが利用しやすい図書館のホームページを目指します。
- 学校図書館との連携を強化し、従来からの資料提供のみならず、学習活動を深めるための助言及び情報提供を積極的に行います。

\*デージー (DAISY) とは、Digital Accessible Information Systemの略で、視覚障害などで活字の読みが困難な人のために制作されるデジタル図書の国際標準規格です。

## (2) ボランティア団体

### 【成果と課題】

#### ①市立図書館3館でのおはなし会が定着

市立図書館3館（阿南、那賀川、羽ノ浦）を拠点とする3つの団体は、子どもの読書活動推進を目的とし、読み聞かせを中心とした定期的なおはなし会（毎週1回）や、季節ごとの行事の催しが継続して行われ、その活動は定着しています。そして、その活動は絵本の読み聞かせの他に、ストーリーテリング（語り）、紙芝居、人形劇、パネルシアター、エプロンシアター、工作、手遊び、わらべうたなど様々な手法を取り入れて、子どもたちが楽しみながら本と出会う機会を提供しています。

また、新しい試みとして「英語で楽しくおはなしひろば」と題し、英語絵本の読み聞かせ会も行いました。読み聞かせボランティアには、小・中学校の外国語指導助手（ALT）に賛助出演を依頼し、和気あいあいとした雰囲気の中で自然に外国語の絵本にも親しんでもらえるよう工夫をこらしました。



英語で楽しくおはなしひろば

#### ②子どもと本をつなぐ地域でのボランティア団体

保育所（園）、幼稚園、小・中学校、児童クラブ、公民館、子育て支援センターなど、それぞれの場所に合った「おはなし会」を実施するボランティア団体が、数多く活動するようになりました。特に幼稚園、小学校では、保護者が中心となって実施されている団体が多く、地域子育て支援の場でも「おはなし会」が定着して行われています。現在、市内の子どもの読書活動団体は別記のように増えつつあります。（巻末資料参照：阿南市教育委員会平成27年10月調査）

今後とも読書活動の魅力、素晴らしさを伝える団体が増えていくことを期待します。

#### ③乳幼児期から絵本との出会い

「ブックスタート事業」では、すべての赤ちゃんに絵本を手渡し、保護者と一緒に絵本を楽しむことの大切さを伝えています。その際の絵本の読み聞かせをボ

ランティアが協力して行い、子育てに絵本の力を活用し、豊かな心を育んでほしいと願っています。

近年、図書館でのおはなし会では乳幼児の親子の参加が多くなってきました。乳幼児期の子どもを持つ親たちの読み聞かせへの関心が高くなり、家庭において継続した読み聞かせをしようとする姿が見られることは喜ばしいことです。2008年（平成20年）から始めた「ぴよちゃんくらぶ」も定着し、多くの親子が参加しています。

#### ④「阿南市おはなしボランティアネットワークの会」

市立図書館を拠点とする3つの団体が中心となって、市内で子どもと本をつなぐ活動をしているボランティア団体に呼びかけ2010年（平成22年）7月に「阿南市おはなしボランティアネットワークの会」が発足されました。団体が互いに育ち合うため、勉強会（おはなしボランティアネットワーク勉強会：隔月）、ストーリーテリングの勉強会（阿南お話たいむず：月1回）を開催するとともに、情報交換、交流などを深めています。

また、本会より「学校図書館を考える会」も発足し、子どもたちが自発的な読書習慣を身につけ、確かな学びや豊かな心を育むうえで重要な役割を担う学校図書館の環境整備や連携を図るための勉強会や情報交換を随時行っています。

#### 【方策】

- 市立図書館と連携・協力して、おはなし会などをさらに工夫、改善し、幅広い年齢の子どもたちの参加と異年齢交流に努め、地域全体の読書活動を推進します。
- 「ブックスタート」に始まり、各年齢の子どもたちやその保護者等に、図書館利用や読み聞かせなど、家庭での子どもの読書環境づくりに向けて積極的な取組を推進・支援します。
- 「阿南市おはなしボランティアネットワークの会」を広く子どもの読書活動団体に呼びかけ、市内全域のネットワーク化を強化していきます。それにより、読み聞かせボランティアの発掘やおはなし会、講座など協働して実施する機会をつくれます。また、学校図書館の環境整備を積極的に推進していきます。
- 市内の小・中学校、保育所（園）、幼稚園、公民館、児童クラブ、児童館など各施設や職員と子どもの読書活動団体との交流を深め、意見交換や情報共有、意思の疎通を図り、要望に応じられる態勢を整えていくことで、ボランティアによる読書活動推進の場を広げます。

### (3) 児童クラブ・児童館・公民館

#### 【成果と課題】

市内には、平成27年12月現在、児童クラブは公設民営が20クラブ、民設民営が1クラブあり、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後や長期の休みに遊びの指導を行いながら、子どもたちの健全育成を図っています。児童館は4か所あり、利用対象は0歳から18歳までの子どもと保護者となっています。

各クラブ・館では図書室や図書コーナーを設けており、子どもたちは絵本、読みもの、コミック等を自由に利用しています。クラブ・館によっては、読み聞かせや読書タイムを設けているところ、移動図書館による図書の貸出や団体貸出を利用しているところ等、状況に応じた取組がなされています。また、ボランティア団体の協力で、季節のおはなし会を開催するなど、日々の活動や行事の機会を利用して保護者にも読書啓発を図っています。

公民館は市内に14館あり、地域における学習・交流活動の場として住民に親しまれ、活用されています。

14館の内11館で図書室を設置していますが、蔵書数も少なく、しかも全体的に古くなってきており、日常的に利用するには十分とは言えません。

これからの公民館の役割として、児童クラブ、児童館、小・中学校、図書館と連携を図り、子どもの読書啓発や読書推進活動及び読書ボランティア活動支援に取り組む必要があります。

#### 【方策】

- 児童クラブ、児童館、公民館において、子どもが本に親しむための環境の整備や市立図書館の団体貸出による図書の充実を図ります。
- 公民館報等を通して、地域住民に読書活動の啓発・広報を図ります。
- 啓発のための講座やイベントの企画運営を図ります。
- ボランティア団体による「おはなし会」等の事業推進を支援します。

### 3 学校等における子どもの読書活動の推進

#### (1) 保育所（園）・幼稚園・認定こども園

##### 【成果と課題】

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であり、この時期に絵本の読み聞かせや大人と一緒に絵本を読む体験をすることが大切です。保育所（園）・幼稚園・認定こども園では絵本の読み聞かせの大切さを認識し、子どもの成長や興味関心に応じた絵本を選択しながら、日常的に保育者の膝に座って見たり、読み聞かせをしたりすることで、絵本に親しめるようになってきています。

また、子どもたちがいつでも手にとって見られるような絵本コーナーの設置をすることで、友達と一緒に絵本を楽しむ姿が見られるようになってきました。絵本に興味関心をもつことで、想像力、表現力が培われ、遊びの中で世界が広がったり、劇遊びに発展したりという姿も見られるようになってきています。

保護者やボランティア団体による読み聞かせでは、絵本を通して周りの人たちとコミュニケーションをとったり、様々な絵本に触れたりすることができ、より絵本のおもしろさを感じられるようになってきています。家庭に向けては、貸出絵本をして園便りや講演会等で絵本の読み聞かせをすることの大切さを伝えて、保護者への啓発につなげています。未就園児と保護者対象の子育て支援事業においても、子どもたちと一緒に保護者の人たちに読み聞かせをしたり、絵本の紹介や貸し出しを行ったりして親子で絵本の楽しさを共有できるようになっています。

しかし、近年、テレビ、電子端末機器等情報メディアの発達、普及により保護者が子どもに関わる時間が減少し、ゆったりと絵本に親しむ家庭が少なくなってきました。今後、家庭に向けて絵本のよさを知らせるための啓発方法やそれを伝えるための保育者の研修の充実が必要と思われます。



絵本の読み聞かせ

### 【方策】

- 保育所（園）・幼稚園・認定こども園で絵本などの蔵書や環境の充実に努め、子どもたちが絵本を通して心豊かな子どもに育つように読み聞かせを推進します。
- 職場体験学習や交流活動の機会に、小・中学生による絵本や紙芝居の読み聞かせを実施し、ともに絵本などに親しむ経験の場となるようにします。
- ボランティア団体との連携によって様々な絵本に触れることにより楽しさを体験し、乳幼児の読書活動を広げていくようにします。
- 保護者に推薦図書の紹介や「子どもの読書の日」などの情報提供を行います。また、絵本を通して親子のふれあいの大切さを知らせ、読み聞かせが心の育ちや言葉の育成につながることを保育者の言葉で伝え、園便り、講演会などの機会に啓発をしていくよう努めます。
- 市立図書館を積極的に利用することによって、乳幼児が発達段階に応じた絵本に親しむ機会を増やすように努めます。
- 絵本の読み聞かせについての技術向上と絵本の重要性を理解するために保育者は積極的に研修会に参加し、保育内容向上と保護者啓発に努めます。



絵本に親しむ子どもたち

## (2) 小学校

### 【成果と課題】

平成27年度全国学力・学習状況調査において、阿南市内6年生の約7割の児童が、「読書が好き・どちらかというが好き」と答え、読書を好んでいる子どもたちの姿がうかがえました。市内全小学校においては、校時表に全校読書の時間が設定されており、児童が読書に親しむ機会や時間が確保されています。また、月1回を全校読書の日とし、読後の感想を絵や文で表現し、全校で紹介する工夫ある取組がされるなど、学校生活における読書活動の推進が図られています。

しかし、家庭での読書時間は短く、平成27年度全国学力・学習状況調査によると、「平日の読書時間が30分以上」と回答した割合は、全国より少ない状況にあり、学校や地域の図書館を利用することも少なく、ほとんど本を読まない児童もいます。

こうした現状から、子どもたちが読書に親しむための機会の充実をさらに図り、家庭・地域・学校が連携し、読書活動の魅力をもっと子どもたちに伝えていくことが重要です。家庭・地域との連携による取組として、現在、学校においては、ボランティア団体との連携・協力が進んでおり、ほとんどの学校で読み聞かせが行われています。合わせて保護者や地域の方がボランティアとして、ブックリスト作成や本の修繕、環境整備などの支援をしている学校もあります。また、市立図書館の移動図書館ひまわり号も積極的に利用しています。

「徳島県読書の生活化プロジェクトⅢ」の取組として、家庭読書の日を設け、親子読書を推進している学校も多くあります。また、図書委員会の工夫ある活動として、児童主体による読み聞かせ、読書週間を利用した読書集会の開催、多読賞表彰、図書新聞の発行やポスターづくりなどの啓発活動、おすすめブックリストの作成と紹介などがあげられ、図書委員会活動の活性化が図られているところです。

学校図書館における蔵書数については、市内22校中、標準蔵書数充足率を満たしている学校が約40%となり、全体の平均充足率も、第一次推進計画作成時より4%増とある程度の改善が見られています。蔵書をデータベース化している学校も数校あります。しかし、全国・県と比較すると、まだまだ及ばない状況であり、依然として「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を十分果たせていない実態があります。平成23年度より全面実施された学習指導要領では、各教科等において言語活動の充実を図る中で、発達段階に応じた体系的な読書活動を行うことが求められています。学校図書館においては、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実させるため計画的な利用と機能の活用を図ることが明記されており、各教科等の学習における学校図書館の積極的・有効な活用と情報化も含め、学校図書館のさらなる充実に向けて取り組んでいかなければなりません。

## 【方策】

- 学校司書の配置に努め、魅力ある学校図書館運営をめざします。
- 「子どもの読書活動推進」の意義や、学校図書館の計画的な利用と機能の活用について教職員の研修の機会を設け、教職員の協力体制のもと推進します。
- 学校図書館を利用した授業を積極的に実施します。
- 「読書の生活化プロジェクト」に取り組み、家庭への啓発を図り、家庭読書を推進し、児童の読書習慣の定着を図ります。
- 子どもが自主的に読書活動に取り組むことができる環境づくりを工夫します。
- 児童による読み聞かせやおすすめ図書・新刊の紹介、読書集会、読書の日・読書週間の設定、読書啓発活動など多様な取組をし、学校図書館の運営方法を工夫することで児童図書委員会活動の活性化を図ります。
- 市立図書館とハード面ソフト面において連携を図ります。
- 学校とボランティア団体とが情報を共有し、工夫を凝らした連携を図ります。
- 各教科の学習に関連する図書の購入や、児童のニーズを考慮した蔵書の充実に努め、学校図書館の積極的活用を促します。
- 読書感想文・感想画コンクールへ、積極的に参加します。
- 平成24年度から実施されている第4次学校図書館図書整備5か年計画を有効に進めていくよう働きかけます。

### 「読書は好きですか」

(小6) どちらかといえば当てはまる以上の回答 (市68.6%、県66.8%、国72.8%)

(中3) どちらかといえば当てはまる以上の回答 (市57.6%、県64.0%、国67.9%)

### 「平日1日当たりの読書時間」

(小6) 1日30分以上の回答 (市34.1%、県34.5%、国37.7%)

(中3) 1日30分以上の回答 (市25.5%、県29.7%、国30.6%)

### 「学校図書館や地域の図書館へ行く回数」

(小6) 週あたり1～3回以上行く (市9.6%、県12.2%、国17.6%)

(小6) 1ヶ月あたり1～3回以上行く (市34.6%、県35.3%、国40.7%)

(中3) 週あたり1～3回以上行く (市4.1%、県4.6%、国8.2%)

(中3) 1ヶ月あたり1～3回以上行く (市13.7%、県14.8%、国19.6%)

(平成27年度全国学力・学習状況調査 [児童・生徒質問紙])

### (3) 中学校

#### 【成果と課題】

阿南市子どもの読書計画策定以降、読書活動に対する取組は推進され、全校一斉の読書活動や読書感想文コンクールの実施などが市内ほとんどの中学校で実施されています。また、学校図書館での本に関する資料展示やお薦めの本の紹介など生徒の自発的な読書活動を喚起する工夫もなされるようになりました。

しかし、平成27年度全国学力・学習状況調査によると阿南市内中学3年生は「読書は好きですか」という問いに対して、どちらかといえばあてはまると答えた生徒は57.6%に留まり、全国や県平均よりも下回っているのが現状です。また、「学校図書館や地域の図書館へ行く回数」についても国・県平均を下回っています。このような現状から読書に親しむ状況がまだまだ限定され、能動的な読書活動に繋がっていない本市の中学生の姿が浮かび上がってきます。

中学生にもなると、交友関係は広がり、部活動や受験勉強などで物理的な時間の制約が増えてきます。携帯電話やスマートフォンの所有率も70%を超え、中学生にとって読書以外の刺激的な世界がより身近に感じられるようになりました。

『本を読むのは嫌いじゃないけど、もっと楽しいことやすべきことがいっぱいある。』というのが今の中学生像なのだと思います。しかし、中学時代は自我意識の高まりが見られ、不安や反抗などを乗り越え、自己を確立させていく時期です。このような多感な時期に、文字を通して、自分の内面を見つめ、新たな自己を発見していく重要性は、ますます高まると考えられます。限られた場所、時間や状況において、いかに有意義な本と出会わせていくのか、この本に出会ったからこそ、今の自分があると言えるような出会いを積極的に創出させる工夫が求められます。

本との出会いを創出するためには、①個々の生徒にとって魅力的な図書が身近にあること。②本と生徒が出会う多様な場面を設定することが必要です。本市の学校図書標準の達成率は、国や県と比較するとまだまだ低いのが現状です。国の第4次学校図書館整備5か年計画による財政措置を有効に活用し、図書の充実に取り組んでいかなければなりません。また、そのことに増して重要なのは、人材の確保です。平成27年4月の学校図書館法改正・施行により、学校司書を配置するよう努めなければならないとされましたが、阿南市内には、まだ配置されていません。学校司書の配置によって、学校図書館の運営、管理や教育活動支援が進むことが期待されます。学校図書館を充実させ、読書好きの生徒を育成するだけでなく、情報活用能力や表現力を育むためにも資料と人材の双方を充実させていくことが望まれます。

### 【方策】

- 学校司書の配置に努め、魅力ある学校図書館運営をめざします。
- 生徒のニーズにあった図書を計画的に購入し、学校図書標準の達成率を高めます。
- 授業との関係を密にしながら、本の紹介コーナー（人権教育コーナーや戦争関連のコーナー等）などを設定し、生徒の読書意欲を高めます。
- 学校図書館を利用した授業を積極的に展開できるよう図書館の整備に努め、学習・情報センターとしての機能を高めます。
- 全校一斉読書を継続、推進するとともに『お薦めの1冊』を紹介するなど活動が広がるように工夫します。
- 市立図書館やボランティア団体との連携を密にし、生徒にとってよりよい読書環境をつくります。

## 第4章 子どもの読書活動推進のための社会的気運の醸成

### 1 子どもの読書活動推進のための情報収集と提供

子どもが、楽しみながら進んで本を手にし、読書に親しむためには、読書活動に関する情報を、いつでも・どこでも・だれでもが利用できる環境を整えることが大切です。そのためには、子どもを取り巻く社会全体の読書活動への理解と協力が必要です。

そこで、学校、市立図書館などの社会教育施設、ボランティア団体、地域社会等が連携し、相互の協力を図る取組を展開します。

また、子どもたちが読みたいと思う本や子どもたちに読んでほしい本、家庭や学校、地域社会で行われる様々な読書活動やイベントの情報を収集し、積極的に提供することによって、読書活動の一層の推進を図ります。

#### 【具体的な取組】

- 読書活動が学力向上や豊かな心の育成に重要であることを、学校や社会教育施設等を通じて、保護者を含めた広く市民への啓発と普及を推進します。
- 家庭や教育施設を対象に、読書活動の必要性を啓発するためのリーフレットや先進的な実践事例を紹介・提供することによって読書活動を推進します。
- リーフレットやホームページ等を活用して、市民に対する「子どもの読書活動」の重要性についての啓発を図るとともに、各種行事や推薦図書等の情報提供を行います。
- ボランティアスタッフの人材確保のために、広報等を通じて公民館・婦人会・各種サークル等へ広く働きかけていきます。

### 2 「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」等への取組

平成14年度から実施されている「子ども読書の日」（4月23日）を中心に、市立図書館・学校等でおはなし会や子どもの本の展示などの関連行事が実施されています。

国や県の広報事業と連携して、「子ども読書の日」の市民への普及に努めます。

「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）、「文字・活字文化の日」（10月27日）、「読書週間」（10月27日～11月9日）において、子どもの読書活動への興味や関心を深めていく取組を展開します。

#### 【具体的な取組】

- 「子ども読書の日」を中心に、その趣旨にふさわしい行事が市内で活発に実施されるよう促します。
- 「子ども読書の日」・「こどもの読書週間」の広報活動の推進とともに「家庭の10分間読書」実施を提唱し、普及に努めます。
- 子どもの読書活動への一層の理解促進を図るため、保育所（園）・認定子ども園・幼稚園・小学校・中学校等のそれぞれの読書活動への取組を紹介して市民に対して関心と理解を深めます。

巻末資料 1

【市内読書活動ボランティアの状況】

活動場所	団体名	代表者
大野保育所	おはなしひろばイン大野保育所	津山淳子
見能方保育所		岩倉孝枝
津乃峰保育所		岩倉孝枝
新野保育所		岩倉孝枝
福井保育所		岩倉孝枝
今津こどもセンター	おはなしのポケット	小西嘉代子
平島こどもセンター	おはなしの会 おはなしのポケット	福長智美 小西嘉代子
羽ノ浦すみれ保育所	ひまわりおはなし会 こすもすおはなし会	福長智美 早見順子
羽ノ浦こぼと保育所	おはなしひろば「こぼと」	安藤今日子
橘こどもセンター	おはなし たんぼぼ	吉原信子
那賀川ひまわり保育園	おはなしひろばイン那賀川ひまわり保育園	安田浩子
横見幼稚園	P T A	保護者・小学校保護者
加茂谷幼稚園	おはなしひろばイン加茂谷幼稚園	田中房子
大野幼稚園	おはなしひろばイン大野幼稚園	小坂孝子
富岡幼稚園	おはなしひろばイン富岡幼稚園	清水郁子
宝田幼稚園	おはなしひろばイン宝田幼稚園	吉田公子
新野幼稚園		岩倉孝江
新野東幼稚園		岩倉孝江
見能林幼稚園	わくわくサークル	P T A 会長 森野利恵
阿南聖母幼稚園	おはなしひろば「聖母幼稚園」	安藤今日子
神崎幼稚園	おはなしひろばイン神崎幼稚園	小川愛可
中野島小学校		奥田麻美
横見小学校	こよみの会	絹川律子
富岡小学校	富小おはなし広場	滝根佳世
宝田小学校	学校支援ボランティア	西條敬子
大野小学校	わくわく絵本スマイル	清野美加
長生小学校	長生小学校読み聞かせグループ	車田マサ子
見能林小学校	みのりん	田村佳代子
桑野小学校	ボランティアグループ 「つぼみっ子」	折野久子
山口小学校	ボランティアグループ 「つぼみっ子」	折野久子
吉井小学校	おはなしひろばイン吉井小学校	湯浅美代子
橘小学校	おはなし たんぼぼ	吉原信子
福井小学校	福井おはなしグループ たけのこ	湯浅恵美子
新野小学校	新野 絵本を読む会	岩倉孝江
新野東小学校	東っ子おはなし隊	山崎淳子
今津小学校	おはなしのポケット	小西嘉代子
平島小学校	おはなしのポケット ひらぼん	小西嘉代子 原田 恵
羽ノ浦小学校	くすくすの会	井上真由美
岩脇小学校	ニコニコ若あゆ隊	佐竹裕美
加茂谷中学校	おはなしひろばイン加茂谷中学校	谷口啓子
新野中学校	新野 絵本を読む会	岩倉孝江、横山節子
加茂谷公民館	おはなしひろばイン加茂谷公民館	上地敏子

巻末資料 2

【各小・中学校の蔵書数（平成27年8月現在）】

※学級数は平成27年度学校基本調査より

	学校名	蔵書数	標準蔵書冊数	学級数
1	中野島小学校	6, 100	7, 000	10
2	横見小学校	5, 382	6, 040	8
3	富岡小学校	10, 970	11, 360	23
4	宝田小学校	6, 621	6, 520	9
5	大野小学校	5, 246	6, 520	9
6	長生小学校	5, 284	6, 040	8
7	見能林小学校	9, 012	9, 160	15
8	津乃峰小学校	7, 484	6, 040	8
9	桑野小学校	5, 321	5, 560	7
10	山口小学校	4, 846	6, 040	8
11	吉井小学校	6, 889	6, 040	8
12	橘小学校	6, 453	6, 040	8
13	福井小学校	6, 295	6, 040	8
14	椿小学校	3, 325	4, 040	4
15	伊島小学校	1, 108	3, 520	3
16	椿泊小学校	3, 625	3, 520	3
17	新野小学校	7, 614	6, 040	8
18	新野東小学校	3, 904	4, 040	4
19	今津小学校	5, 953	7, 000	10
20	平島小学校	8, 520	9, 560	16
21	羽ノ浦小学校	11, 201	11, 560	24
22	岩脇小学校	8, 549	7, 000	10

	学校名	蔵書数	標準蔵書冊数	学級数
1	阿南中学校	9, 517	14, 240	20
2	阿南第一中学校	9, 793	11, 680	14
3	阿南第二中学校	9, 793	8, 480	8
4	加茂谷中学校	6, 764	6, 720	5
5	福井中学校	5, 798	6, 080	4
6	椿町中学校	5, 783	5, 440	3
7	伊島中学校	1, 549	5, 440	3
8	新野中学校	13, 713	6, 720	5
9	那賀川中学校	12, 241	11, 200	13
10	羽ノ浦中学校	7, 630	11, 680	14

学校図書館図書標準（標準蔵書冊数）の算出方法

小学校

学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3～6	3,000 + 520 × (学級数 - 2)
7～12	5,080 + 480 × (学級数 - 6)
13～18	7,960 + 400 × (学級数 - 12)
19～30	10,360 + 200 × (学級数 - 18)
31～	12,760 + 120 × (学級数 - 30)

中学校

学級数	蔵書冊数
1～2	4,800
3～6	4,800 + 640 × (学級数 - 2)
7～12	7,360 + 560 × (学級数 - 6)
13～18	10,720 + 480 × (学級数 - 12)
19～30	13,600 + 320 × (学級数 - 18)
31～	17,440 + 160 × (学級数 - 30)

阿南市子どもの読書活動推進計画 第二次推進計画 作成委員名簿

No.	所 属	氏 名	備 考
1	阿南市教育委員会教育次長	長野 莊次	委員長
2	阿南市小学校図書館教育係校長	山田 百代	副委員長 (吉井小学校長)
3	おはなしひろば・ひまわり代表	田中 房子	副委員長
4	阿南市こども課保育指導保育士	悦見 紀子	
5	阿南市立今津こどもセンター所長	吉田 恵子	
6	阿南市立新野幼・新野東幼稚園長	倉野 真由美	
7	阿南市小学校国語部会係校長	森 文彦	(山口小学校長)
8	阿南中学校国語部会・図書館教育係校長	坂本 和裕	(伊島中学校長)
9	こすもすおはなし会代表	早見 順子	
10	おはなしのポケット代表	小西 嘉代子	
11	阿南市教育委員会学校教育課主幹	近藤 真一	事務局長
12	阿南市教育委員会参事(図書館担当)	岩崎 麻美	事務局
13	阿南市こども課長	倉野 克省	事務局
14	阿南市教育委員会生涯学習課長	西尾 和洋	事務局
15	阿南市立阿南図書館主査司書	伊勢 真実	事務局
16	阿南市立那賀川図書館主任司書	鷺巣 明子	事務局
17	阿南市立羽ノ浦図書館主査司書	佐野 香代子	事務局

阿南市子どもの読書活動推進計画  
〔第二次推進計画〕

---

発行日	平成28年3月1日
発行	徳島県阿南市 〒774-8501 徳島県阿南市富岡町トノ町12番地3
編集	阿南市教育委員会 TEL(0884)22-3390

---